



小磯良平(語り子) 1935年 本館蔵

特集
展示 新聞連載小説挿絵原画
「人間の壁」(十一)
【石川達三著】

最終 第546～593回を展示
(展示室2)



元川嘉津美(工場風景) 1950年 本館蔵

コレクション企画展示
画家たちの1950年代
～「人間の壁」と同時代に
描かれた作品～
(展示室3)

| | | |
|-------|-------|-------|
| 角野判治郎 | 古家 新 | 田中 忠雄 |
| 田村孝之介 | 小松 益喜 | 元川嘉津美 |
| 梶井 一夫 | 川端 謙次 | 西村元三朗 |
| 西村 功 | 中島 節子 | 鴨居 玲 |

小磯良平作品選Ⅰ

会期 2013年4月4日(木)～4月29日(月・祝)

- 休館日/月曜日(ただし4月29日は開館)
- 開館時間/午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 入館料/一般200円(160円)、高校・大学生150円(120円)、小・中学生100円(70円)
()内は30名以上の団体
*のびのびパスポート、神戸市老人福祉手帳(すこやかカード)持参の方は無料
- ギャラリートーク/毎週日曜日午後2時より約30分
- 子どものための美術講座/4月27日(土) 美術館大作戦1「小磯さんの線をたどろう」
小中学生対象20名(申込締切 4月16日)
詳細はお問い合わせください。

神戸市立小磯記念美術館

〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中5-7【六甲アイランド公園内】
TEL (078) 857-5880 http://www.city.kobe.lg.jp/koisomuseum/



小磯良平「人間の壁」第53回 強権発動 (六) 1959年



小磯良平「人間の壁」第50回 強権発動 (十三) 1959年

小磯良平作品選I

特集展示：新聞連載小説挿絵原画「人間の壁」(十一)【石川達三著】
最終：第546～593回を展示 (展示室2)

小磯良平の挿絵原画

卓越したデッサン力を持つ小磯良平は、多くの新聞連載小説の挿絵原画を手がけました。朝日新聞朝刊に1957(昭和32)年8月23日から1959(昭和34)年4月12日にかけて連載された「人間の壁」(全593回)は、担当した小説のなかで最長のものです。題材を反映した社会的な各場面が鋭い線で描かれた、ジャーナリスティックな趣のある挿絵です。

石川達三(1905～85)は秋田県出身の社会派作家。

神戸の移民収容所における、ブラジル移住直前の人々の様相を描いた「蕃奴」(1935)で第1回芥川賞を受賞しました。小磯良平とは「風樹」(1941年、東京日日新聞・大阪毎日新聞)でも組んで新聞連載小説の仕事を経験しています。

「人間の壁」

1957(昭和32)年2月に起きた佐賀県教職員組合の事件をもとに、石川達三が取材を重ねて発表した小説です。財政難を理由として教員の整理、定期昇給凍結がおこなわれたため、教師たちは県当局に猛反発。自らも退職勧告を受け、退けた、津田山東小学校の教師・尾崎ふみ子が主人公です。

お待たせしました! 2011(平成23)年2月8日～4月17日に展示紹介した「人間の壁」(十)から約2年。物語はついに最終盤へ!

(前回までのあらすじ)

……教育の発展をさまたげる壁はあらゆるところにあった。そうした厚い壁につきあたり、はね返されながら、ふみ子はだんだんと鍛えられていった。

ふみ子は同僚の沢田先生に好意を寄せていた。沢田先生は病気で奥さんを亡くし、そのうえ教え子に暴力をふるったという誤解から学校を追われた教師である……

沢田先生は、ふみ子に申し出をおこなう……

コレクション企画展示

画家たちの1950年代

～「人間の壁」と同時代に描かれた作品～(展示室3)

角野判治郎 古家 新 田中 忠雄
田村孝之介 小松 益喜 元川嘉津美
榎井 一夫 川端 謙次 西村元三朗
西村 功 中島 節子 鴨居 玲



西村元三朗(赤い壁) 1951年

掲載作品は全て本館蔵



榎井一夫(石切場 (C)) 1956年

いよいよ
強権発動が……

ふみ子は
どうするのか?

逮捕者続出!
彼女自身の
運命は?

今回が最終回です。23日間のみ!
ぜひ、お見逃しなく!



神戸市立小磯記念美術館

〒658-0092 神戸市東灘区岡上4-5-7【六甲アイランド公園内】
TEL (078) 857-5880 http://www.city.kobe.lg.jp/koisomuseum/
交通案内/JR住吉駅、阪神夙川駅のみかえ
六甲ライナー「アイランド北口」駅下車すぐ